

8月15日は終戦の日。戦後76年が経ちました。

1945年 8月6日 午前8時15分 広島に原子爆弾投下
同年 8月9日 午前11時2分 長崎に原子爆弾投下



戦争があった事実は、戦後生まれの私たちもこれからの時代を生きる子どもたちに語り継いでいけること。人が起こしてしまった戦争の歴史は決して記憶から消してはいけないと思うので、黙とうを捧げます。この戦争のない時代が、後世にも引き継がれていけるよう自分にできることを考えたいです。

仲嶺 真弓

今年も無事、5歳児のお泊り保育を終えることができました

毎年、お泊り保育を終えた直後からの5歳児の子どもたちの表情は、少したくましく目に映ります。お泊り保育は、ドキドキワクワクする楽しい体験の一つであると共に、子どもたちにとっては大きな挑戦でもあります。今年も22人のぞう組っ子、22通りの挑戦がありました。大人は、どう寄り添い、背中を押してやるのか…。職員は今年も、ひとり一人の子どもたちを見守り、心に寄り添い、向き合い、考えました。子どもたちはこの体験をバネにして少しずつたくましく成長していきます。保育園は子ども自身が、他者を知り、自分を知ることで生涯の自分を支える根っこをつくる場所です。その成長過程に関わることが保育士の役割であり、誇りでもあります。5歳児に限らず、どの年齢でも、日々の楽しいことの中に体験を通したそれぞれの挑戦があります。その姿を共有しながら子どもたちの育ちを見守り、子ども自身が気づき、自分の力に変えていける環境を保護者と一緒に考えていきたいです。

そう言えば…つばさ共同保育園の園歌はご存じですか？度後半期から4・5歳児クラスでは、運動会や卒園に向けての活動も少しずつ取り組み始めるので、耳にする機会が多くなると思います。全クラスの保護者にご紹介しておきたいと思います。

つばさ共同保育園園歌は、2015年度卒園の保護者が卒園の記念にと残してくれました。保護者間で得意分野を活かして、文章が得意な人は詩を書き綴り、ピアノが得意な人は詩に合わせて曲をつけました。最終、出来上がりを聞いて、保護者同士で意見を交わしこの歌が完成したそうです。「卒園の記念に作ったけれど、無理に園歌にしなくてもいいから。」とこの曲をどうするか判断は園に託してくれました。手渡されたこの歌の歌詞を目にしたとき、とても感銘を受けたことを今でも覚えています。保護者が書き綴ってくれた詩に、子どもたちの生活そのものが描かれていました。それは、職員が日頃から大切にしていることでもあったので、保護者と共に子どもたちの育ちを見守ってこられたという証のように私には思えました。不思議なことに、この歌は、時を重ね、歌うたびに、今でもじわじわと心に染み続けています。お泊り保育の話を書きながら、ふと、脳裏に浮かんだ園歌の話。日々、子どもたちが繰り広げる生活が、この歌詞から垣間見られます。全クラスどの年齢の子どもたちにも共通する思いが根底にあふれています。まずは、ぜひ一読していただけたらと思います。

つばさ共同保育園 園歌

大好きな友達 今日元気な笑い声
木登りしよう 駆けっこしよう
いつも一緒つばさっ子
たまにはけんか ごめんね いやや ほん
との気持ち教えてよ
いっぱい話そう 思い伝えよう
ごめんね いいよ 仲直り

冒険に出かけよう 今日は何が起こるかな
勇気を出して 前へ進もう
大丈夫だよ つばさっ子
キラキラ輝く 未来へはばたけ 素直な気
持ち大切に
ひとりじゃないよ ここにいるよ
つばさ共同保育園